（別記様式3-1）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

授業担当者
所属/職名：農学部・准教授
氏　　名: 岡本　繁久・花城　勲

授業科目名	国際感覚を持つバイテク人材育成
研修先（国・地域） 滞在地	タイ・バンコク　モンックト王工科大学トンブリ校（KMUTT）
研修期間	2017 年 2 月 15 日　～　2017 年 2 月 26 日

〔研修の成果〕

農学部と工学部に所属する 9 名の学部生を提携校 KMUTT へ派遣して短期研修を行った。バイテクに関連する 6 講義を受講させると共に、ラン農園、国立食品研究所、味の素現地法人のアユタヤ工場、タイ最大の食品総合商社 CPF、タイ資本の醤油会社、食品市場などを視察した。これらの活動を通じて、熱帯地域における農業や食品業の問題点や実践的なバイテクとは何かを学ばせることができた。また、味の素の社員からはタイ人と友好関係を構築する術を学んだ。 活動の目玉として受入校の学生(修士) と問題発見解決型授業（PBL）を行った。今回のテーマは「温暖化が農業に与えるインパクトとそれに対する対策」であり、両校の学生が問題点を提示し、解決策を話し合い、最後には結論を KMUTT と KU の教員に対して披露した。最初は戸惑っている感もあったが、最終的に見事に発表したことは短期間で彼らが大きく成長したことを物語る。この他、タイの歴史、或いは日本との関係性を学ぶため、アユタヤ市の世界遺産と日本人村、バンコク市の寺院(ワット) や博物館などを訪れた。これらの訪問視察を通じて、タイ王国の成り立ちや、日本との交流の歴史を学んだ。加えて、市場では買い物を通じて市井のタイ人とのコミュニュケーションを試みた。ここでは、語学力ではなく伝えようとする姿勢の重要性を学ばせることができたと考えている。 初めて訪れる外国、しかも東京をしのぐ大都市に身を置き、受入校の学生をはじめとするタイ人、学生にとっては恐らく濃密に接する初めての外国人ということになるが、彼らとの関係構築を通じて、日本と外国、そして、国際交流とは何かを考えるよい機会になったと思われる。

〔今後の課題〕

本プログラムは、国際的に活躍でき、しかも地域産業にも寄与できるバイテク人材の育成を目指して今年初めて実施した学生海外派遣事業である。派遣学生の中に低学年次の者も含まれており、バイテクの知識がほとんどないものも見受けられた。次年度以降は、事前授業をさらに充実させ、バイテクとは何かを学ばせる必要がある。また、PBL 講義の際に本学学生の英語力不足を痛感した。派遣前に学生に英語会話を学ばせる機会を作る必要がある。